

講習会



果樹農作業講習



スマートフォン講習



メイクアップセミナー



障子張り替え講習



安全パトロール



定時総会



出張入会説明会



門松作り

センターでは、就業
以外にもさまざまな
活動をしています！

天童市シルバー 人材センター 活動のようす

シルバー事業 普及啓発促進月間



会員拡大広報活動



シルバーの日 ボランティア活動



地域班奉仕活動



シルバーアート展

会員互助会 もみじ会



グラウンドゴルフ大会



料理教室



そば打ち講習



日帰り旅行(置賜方面)



会 員
須藤 義正
すみ子
(駅東班)

まずご紹介するのは、舟形町から天童市に移住して3年目のもの静かな須藤義正さんと、元気で明るい性格のすみ子さん御夫妻です。

お二人は、草取りやブドウ農家での果樹農作業、冬期間は高齢者宅の除雪作業など、様々な仕事に取り組んでいます。

すみ子さんは、舟形町でもシルバー会員として福祉関係の仕事で元気に活動していました。会員互助会の役員を務め、新年会を企画するなど積極的に活動に参加していたようです。昨年は、持ち前のパワフルさで高齢者宅の除雪を数件担当し、除雪の人手不足であった地域の救世主となってくれました。

一方、義正さんは現役時代に出張が多かったこと

もあり、昔は夫婦の会話が少なかったといいます。ところが、天童に来て二人揃ってシルバー会員になってからは、一緒に仕事をすることも多く、共通の話題ができて夫婦の会話がぐんと増えたとうれしそうに話していました。公園の草取りの仕事を一緒にやった日は、昼休みに二人で仲良く弁当開きをして楽しむのだとか。

予定の仕事が終わり、依頼主に「また来年もあなたがたにお願いしたい」と言われた時は、達成感を味わうとともに、力を合わせて働いた仲間を頼もしく思うと声をそろえて話してくれました。

今後のシルバーライフについて、すみ子さんは「これからも草取りや果樹農作業など屋外の仕事を続けたい」。義正さんは「無理をしないで現状維持でいきたい」といいます。

仕事を通して新しい友達がたくさんできた須藤御夫妻。これからも健康に気をつけながら、夫婦仲よく仕事を続けていきたいと取材を通して感じたところでした。

(瀧口・伊藤 記)

Silver Life ~シルバーライフ~

今回はおしどり会員さんをご紹介します。

天童市シルバー人材センターには、25組のおしどり会員さんがいます！



会 員
小松 健一
京子
(北目班)

次に紹介するのは、小松健一さん、京子さん御夫妻です。お二人は、今年結婚50年の金婚式を迎えた熟年仲良し御夫妻です。

シルバーへは京子さんが一足早く入会し、令和4年8月から学童保育所で保育補助として1日4時間週4日働いています。職場では、先生や子供たちと折り紙をして遊んだり学びもあつたりと、楽しく過ごしています。健一さんは、京子さんが生き生きとして楽しく働く姿を見て、令和5年シルバーに入会

し、4月から11月は市内の企業で敷地内の清掃や草取りを1日3時間週2回行っております。冬期間は3か所の除雪作業を請負っています。仕事は大変な時もあるようですが、きれいになった現場を見るとやりがいがあるそうです。その他、現役時代に建具職人を50年以上経験し腕を磨いたことから、その技術を生かし、網戸や建具の修理も行っています。一方、京子さんは若いときからパッチワークを習っており、現在では講師の資格を取得するほどの腕前です。毎週木曜日には教室を開き、趣味を超えた生きがいともなっているといいます。

そんな小松御夫妻の共通の趣味は、中国ドラマを觀賞すること。仕事が終わってから仲良くドラマ鑑賞を楽しんでいるとのことでした。これからも仲良くシルバーライフをエンジョイしたいと笑顔で話してくれました。

(加藤・佐久間 記)

＊夫婦仲の良いことを表現することわざ＊

鴛鴦之契 (えんおうのちぎり)

おしどりがつがいと仲睦まじくいることから、夫婦が深く結ばれて仲の良いこと。いわゆるおしどり夫婦です。「鴛」は雄のおしどり、「鴦」は雌のおしどりを意味します。

偕老洞穴 (かいろうどうけつ)

夫婦が仲睦まじく長生きし、死後は同じ墓穴に入るほど夫婦の契りが深いこと。「偕老」とは「共に老いる」ことを「洞穴」とは「同じ墓穴に葬られること」を意味します。

シルバーアート展 作品紹介



折り紙作品
三澤 敏昭



プラモデル
東海林 文夫



吊るし飾り
小松 京子



フェルト作品(スイーツ)
國井 美佐江



スタンドグラス
國井 美佐江



スカーフリメイク作品
進藤 悠美子



PPバンドカゴバッグ
高橋 眞理子



バッグ・ティッシュケース
須藤 すみ子



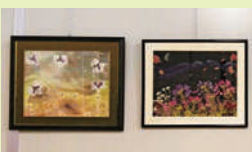
折り紙作品
見立 米子



最上川舟下り
齋藤 妙子



水墨画
菅野 洋一



押し花アート
國井 美佐江



書 道
瀧口 恵子



手芸作品
遠藤 啓子



クラフトバンドバッグ
松田 恭子



クラフトバンド作品
小松 美枝子

新年の俳句から

女の年、年の始の火を使ふ

(おんなのて としのはじめの ひをつかう)

【解説】

野澤節子

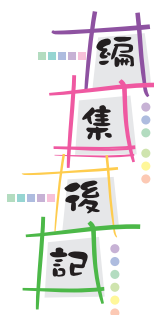
野澤節子は、大正9年(1920年)生まれ。家事一般が女の仕事とされていた時代の女性俳人です。

「年の始」が新年の季語。元日の朝、かまどに火を入れたところでしょうか。新しい年が動き出しました。一年間台所を預かり家庭を守る女の覚悟と矜持が伝わってきます。

「女の手」とわざわざ「手」を書き入れたことで、場面場面で手の動きや仕草が思い浮かびます。そこにこの俳句の深さがあります。

人類が自ら火をおこす技術を身につけたのは、数万年前から7千年前頃と考えられています。女たちは火をおこし、火を守りながら、狩を終えて帰ってくる男たちを待ったのでしょう。長い時を隔てた今も、その心持ちをこの俳句から感じ取ることが出来ます。

伊藤 寛二(会員・俳人)



編集後記

■新年あけましておめでとう
ございます。令和8年も会
員の皆様、市民の皆様、元
気にスタートしましょう。

■昨年は、20年ぶりに国内開
催となった大阪・関西万博
に始まり、猛暑の夏、米の
価格高騰、女性初の総理大
臣の誕生、そして連日のク
マ騒動など、話題が豊富な
1年でした。

■今年は、皆様の健康と活躍
を祈りつつ、穏やかな年にな
ることを願います。

■シルバーライフの取材にご
協力いただきました2組の
おしどり会員様、ありがと
うございました。今後とも
広報紙「シルバー天童」へ
のご意見や情報提供など、
会員の皆様のご協力をお願い
いたします。

(瀧口 記)

広報委員会

瀧口 恵子 佐久間 勉

庄司 豊子 伊藤 寛二

加藤 真利

賀詞 松山 一男 会員

家にいるだけじゃもったいない!

セカンドライフは
シルバーで!!

会員募集中

健康づくり



仲間づくり



生きがい



シルバー人材センターは
元気に働くシニア世代を
応援しています。



お仕事
大募集中!

短期のちょっとした作業
でもOK!

まずは気軽に
ご相談
ください。



入会説明会

とき 令和8年 1月23日(金)
2月9日(月)、27日(金)
3月9日(月)、27日(金)
各回とも午前9時30分開始

場所 天童市総合福祉センター

入会のご相談・お問い合わせはいつでも受け付けています。

問い合わせ

公益社団法人 天童市シルバー人材センター

ホームページはこちらから▶

〒994-0013 天童市老野森二丁目6番3号 天童市総合福祉センター2階
TEL 023-654-7388 FAX 023-652-0213 メールアドレス tendo@sjc.ne.jp

